



副審を担当する方へ

アットホームカップ審判委員会から副審として関わる皆様へ、基本的な心構えとここだけは絶対に守ってほしいという内容です。試合に挑む同じ選手という立場として、しっかり規則を守り、担当する試合に責任感を持って挑んでください。選手・審判・大会スタッフなど、この大会に関わる皆で大学同好会最高峰の大会を作り上げましょう。

【当日準備する物】 ※必須の持ち物です。忘れないようお願いします。

- ・黒の審判服のシャツ・パンツ・ソックス3点セット（メーカーは問いません）2名分
- ・スパイクまたはトレーニングシューズ
- ・身分証明証（学生証や運転免許証など）

【1】 身だしなみを整えて試合に挑む

- ・シャツのすそは短パンへしまう
- ・ボタンはしっかりと留め襟はきちんと折る
- ・短パンは必要以上に下げない
- ・スパイクまたはトレーニングシューズを履く
- ・選手同様に装飾品（ピアス／指輪／ネックレスなど）は外す。

【2】 集合時間を守り主審との打合せをする

副審の集合時間は、各会場本部に15分前です。時間を守って集合し、主審との打合せをしっかりと行いましょう。また遅刻は試合スケジュールの遅れにも影響します。選手へ迷惑をかけないためにも時間厳守でお願いします。

【3】 選手へのリスペクトを持って試合に挑む

与えられた試合は、責任感を持って真剣に挑んでください。同じ選手という立場として試合を行う選手の為を考え、正しい判定をする為に最大限の努力をお願いします。

- ①一生懸命走ってオフサイドラインをキープする
- ②シグナルはしっかり示す。どっちのボール？といった不安を選手に感じさせない
- ③ダッシュの際を除きフィールドに対して正対＝サイドステップが基本の動き。
- ④オフサイドと思ったら、しっかりフラッグを挙げて、その場で立ち止まること。

※前後半での副審の変更は認められません。1試合を通して同じメンバーが担当してください。

【オフサイドの反則について】

副審において特に重要となる「オフサイド」についての説明です。

しっかりとルールを確認し試合に臨みましょう。

～具体的に何をするとオフサイドになるか～

① 攻撃側がオフサイドポジションにいる味方にパスを出す（プレーに干渉する）

ボールを出した瞬間に、受けようとする味方がオフサイドポジションにいると反則になる。

② 相手選手の視界やプレーを邪魔する（相手競技者に干渉する）

オフサイドポジションにいる味方に向かって蹴っていないくても、その選手がゴールキーパーと競りにいくと、「相手の視界やプレーを邪魔した」と取られ、反則になる。その選手が相手ディフェンダーの進路を妨害しても、同様の反則になる。

③ オフサイドポジションにいることによって利益を得る

味方が蹴ったボールがゴールポストに当たり跳ね返る、あるいは相手選手に当たって跳ね返り方向が変わったボールに対し、既にオフサイドポジションにいる選手が反応すると「オフサイドポジションにいることによって利益を得た」と取られ、反則になる。

つまり味方が自分以外の選手やゴール目がけて蹴った瞬間に、自分がオフサイドポジションにいたら、相手選手やポストに跳ね返って自分の前にこぼれてきてもプレーできない

※ただし、以下のシチュエーションの場合は「オフサイドポジションにいることによって利益を得る」と判断されない

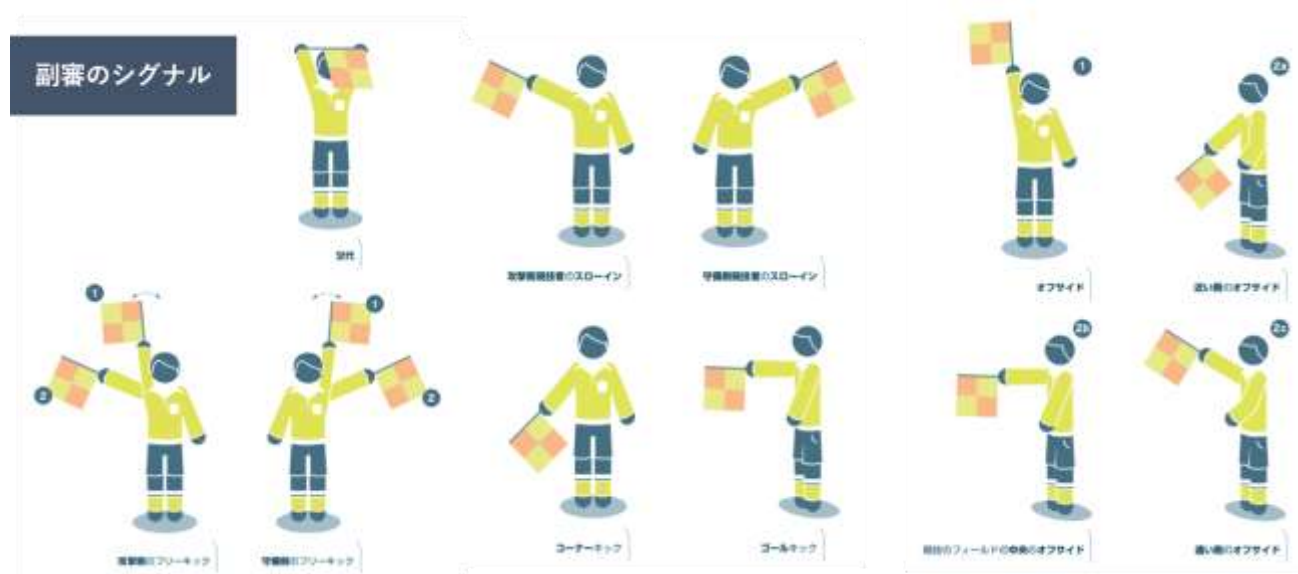
味方が自分でない選手やゴール目がけて蹴った瞬間に自分がオフサイドポジションにいても、相手選手がクリアや蹴り出しなど意図的にプレーした場合（ゴールキーパーのセーブは除く）は、それによって跳ね返りこぼれてきたボールを受けてプレーしても「利益を得た」と判断しない。

つまり相手選手がクリアミスをしてしまうと、蹴った瞬間にオフサイドポジションにいた選手に渡っても反則にならず、そのままプレーを続けることができる。

～オフサイドの反則ではない～

- ・ゴールキック、スローイン、コーナーキック

【副審のシグナルについて】



【2019-20年 競技規則改正】

①ハンドの反則 (第12条)

『偶然のハンドによるゴールは無効となる』

- 偶発てきであっても、選手が手や腕で ボールに触れて・・・
 - ・得点する
 - ・得点の機会を作り出す
 - ・手や腕を不自然に大きくする
 - ・手や腕が肩より高い位置にある ⇒全てハンドの反則になります。
- 選手が手や腕でボールに触れたが・・・
 - ・自分の体に当たったボールが手や腕に当たってしまう
 - ・近くの他の選手に当たったボールが手や腕に当たってしまう
 - ・ボールが当たってしまったが、手や腕は体の近くにあり、体を不自然に大きくしていない
 - ・手や腕にボールが当たってしまったが、倒れたときに体を支えるために地面に着いた手や腕である ⇒ハンドの反則にはなりません。

②フリーキック (第13条)

『フリーキックの壁には攻撃側の選手は入れなくなった』

守備側チームが3人以上で壁を作るようなフリーキックの時は、ボールがインプレーになるまで全ての選手は壁から1メートル以上離れなければいけなくなりました。壁から1メートル以内に侵入し

てしまった場合、守備側チームの間接フリーキックからスタートすることになりました。

③交代（第3条）

『交代になる選手は、タッチラインまたはゴールラインの一番近いポイントから出る』

④チーム役員（第5条、第12条）

『監督やスタッフにもカードが提示される』

⑤ドロップボール（第8条）

『レフェリーにボールが当たった場合、ドロップボールで再開』

ドロップボールは1人の選手のみを与えられる。

ボールが審判員に当たってしまい、

①チームが大きなチャンスとなる攻撃を始める

②ボールが直接ゴールに入る

③ボールを保持するチームが替わる ⇒場合はドロップボールでの再開となります。

⑥ペナルティーキック（第14条）

『ゴールキーパーはPKの際、ゴールラインに片足を乗せなければならない』

⑦キックオフ（第8条）

コイントスに勝ったチームは、どっちに攻めるか、キックオフを行うかのどちらかを選べるようになりました。

⑧守備側チームによるペナルティーエリア内のフリーキック、ゴールキック（第13条、第16条）

ボールが蹴られて動いた瞬間にインプレーとなり、ボールがペナルティーエリアを出る必要がなくなりました。